

平成26年10月23日（木）

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会

会員の皆様へ

## 《10月度農場便り》

### 「木村農園訪問と研修生受け入れ」

秋の収穫も終盤を迎えています。4日間冷たい雨の日が続きましたが今日は爽やかな秋晴れでした。天日干しをしてある「ササシグレ」の脱穀が来週には終える予定ですのでこれで秋のお米の収穫は完了です。毎年のこととはいえ安堵と喜びを味わえる時期です。

こんな忙しい時期に木村式自然栽培勉強会@山梨の懸案の師と仰ぐ弘前の木村農場に9月16日訪問することが出来ました。片道900キロ、大型バスで12時間の延べ3日間の行程は厳しいものがありましたがこの目で確かめ、実践していることに自信を持つことが出来ました。木村農園だけでなく成田陽一氏の野菜中心の自然栽培農場「健康村」も合わせて訪問し研修を受けました。木村さんの人並み外れ抜きこんでいる点は観察力です。栽培対象のリンゴ、野菜、お米の生育状況の日々の観察は勿論のこと、栽培環境の地形、気候、土、地下の気温、生える草の種類、生息する昆虫、地下水の水の流れ等に気を配り生育状況の少しの変化にもその原因を突き止めていることです。変化は偶然性でなく何らかの因果関係があると基本的に考えていることです。何も手を加えられていない森林の木々、植物は毎年、毎年、豊かな自然を保っています。生成と衰退を誰に教わることなく営々と繰り返しています。ところが人間界の仕業でその生態系の循環も大きな変化をしてきています。木村さんはその生態系の循環に逆らわない栽培方法を確立せんと弛まぬ努力をしているのです。そのことを淡々とまた理解しやすく話してくれるのでした。

ところで11月1日から若い就農希望の國武 芳、道夫婦を研修生として受け入れることになりました。國武君は福岡、道さんは淡路島出身です。國武君のアトピーが自然栽培野菜で症状が軽減して自然栽培野菜づくりで暮らしを立てたいとの希望です。彼らの意思を何回か確認し、両親含め理解を得たとのことで決断した次第です。この地域で将来も生活するという事です。これで小生が関係する3組目の就農者となります。小規模農業の環境は経済優先の国策で一段と厳しいものとなるでしょう。それでも食は生きていく上で最も大切な一つです。自然栽培で暮らしを立てられる仕組みは簡単には確立できません。取り組む就農者達と連携して若い彼らが希望をもって取り組めるようサポートできればと考えています。また大きな荷物を背負うこととなりますが会員の皆様のご理解とご支援をこれからも宜しくお願い申し上げます。今月からは新米が中心となります。新米の香りと味をご賞味ください。

・木村秋則氏の現場講習（10/16）

・木村秋則氏と（10/16）



メール [yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp](mailto:yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp)

携帯080-3080-3017